

信友会創立45周年

信友会創立四十五周年を迎えて

会長 福井孝三



信友会は、歴代会長始め会員の皆様の本会発展への絶大な情熱と努力によって今年めでたく四十五周年を迎えることになりました。また、これは偏に事務局を支援して頂いている株式会社愛日(社長水口二平氏)と通信電子課並びに現役諸官のご支援の賜であり厚く御礼申し上げます。会員も若くなり昔のことを知らない者が多くなりましたので(筆者も含めて)、少し信友会の歴史を振り返ってみたいと思います。

昭和三十年代後期、警察予備隊、保安隊に入隊された方々の中から退職者が始め、旧調達班OB会、土曜会、シグナル会、RSCC等いろいろな会を作った夫々が定期的に集まるようになった。それが一つに纏まるようではないかということになり、昭和三十一年十一月五日京岳寺に程近い港区田町の札の辻会館に六十六名が参集し、信友会の前身である「通信OB会」が呱呱の声をあげました。初代会長は桜義雄氏です。これを信友会誕生の時としており、この時から数えて四十五周年ということになります。

会則は昭和四十三年第五回通信OB会で制定されました。また、会の名称が現在のように名が体を表し響きも良い「信友会」となったのは昭和四十八年の第十回からで、名付け親は平岡与一郎氏と伺っております。昭和五十一年の信友会は、陸軍通信課(課長小林有一氏)創立二十五周年記念大会と合同で実施され、三百五十名の盛大な会でした。また、現在のように懇親会を現役と共催で実施するようになったのは昭和五十二年の第十三回信友会からです。この時から懇親会は退職者歓迎迎会を兼ねて行われるようになりました。

一方、機関紙「信友」は昭和五十四年の第十五回信友会に十五周年記念号を出そうということになり、半年かけて準備、通信電子課、通信団等の協力を得て「信友」第一号が発刊されました。その後三年一度位発行しようということだったのですが、第二号は二年後の五十六年に発行され、以来毎年発行されております。そして「信友」第二号に「陸軍通信科の現況(執筆通信課)」を載せる事になり、その後、「陸軍通信電子トピックス」、「陸軍通信電子の現況」等表題は変わりましたが、OBにとっては、陸軍通信の現状を知る唯一の大変ありがたい記事が毎号載ることになりました。この記事を読めばその年の通信電子発展の現状を知ることが出来、又、現役・OB通信ファミリーの絆を一層深める手段となっております。今年は四十五周年記念号として「会員より(全国会員の近況)」を特集させていただきます。

信友会は、会則で「会員相互の親睦を図ることを主たる目的とし、そのための簿の作成、総会の開催、その他本会の目的を達成するための事業を行う」となっております。先輩の皆様が年一度の総会時の懇親会を昭和五十二年から現役・OBの合同で実施するようにされたのは、陸軍通信の伝統を築いた者とそれを引き継ぎ継承している者と一緒に会しファミリーとしての絆を深め、更なる陸軍通信への貢献と発展を期することにあると思えます。信友第一号で当時の会長大河原三平氏は「現役の頃は率直忌憚らない話し合いが出来た。お互い口は悪いが腹は悪くない。これを中国では『辛口婆心』と言う。信友会が同一言語族の集まりとして大いに語り合う連帯の場でありたいものだ。」と述べておられます。

信友会の現在の会員数は約一千百名です。この中には当然地方会員もおられるわけですが、地方会員が何らかの形で信友会活動に参加出来るように、昭和六十年から通信団の記念行事の懇親会時、地区懇親会を兼ねさせて頂いております。しかしながら、地方会員の活動のあり方、中央と地方の関係等今後検討する課題のひとつではないかと考えております。今後とも会員の皆様のご意見・指導を賜り、陸上自衛隊に誇れる信友会の一層の充実発展に役員一同努力したいと存じますのでよろしくお願い申し上げます。

「不易流行」

通信学校長 田中達浩



新年明けましておめでとうございます。信友会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また本年は信友会発足四十五周年を迎えられ誠にめでたう御座います。昨年三月に中村学校長の後を受け第二師団副師団長から着任いたしました。前職では陸上自衛隊の先進型部隊の実験に際し、「群盲象を撫でる」ごとく運用の分野、各種の専門技術の分野等を総合化して先進部隊のモデルを創造するため、全員で知恵を絞る、必要に応じてシミュレーション等を実施し「部隊の創成」に直接参画することが出来ました。

学校長に着任し執務室の窓から見える松の庭園と玉砂利の様子、昔から変わらない趣ある景色を見ながら、二十四年振りに学校に帰ってきて、将来のため何を变えていくのだろうということと逆に变えてはいけない普通の事項は何だろうと思いました。自衛隊、通信を取り巻く環境の変化等移りゆく時代へ対応し現在、将来に役立つ有為な人材を育成するための「不易流行」の視点、それが松の庭園と玉砂利が教えているような気がしました。

通信を取り巻く環境は、まず運用の変化、即ち国際平和協力活動の本来任務化、ゲリラや特殊部隊への対処、大規模震災対応など陸上自衛隊の役割が多様化することにも統合運用態勢の強化等の変化があり、次にインターネットやIP技術に代表されるように情報通信技術の進歩は近年著しいものがあり更に加速しています。このような環境下、通信に対するニーズも大きく変化し、陸上自衛隊内の通信の提供はもとより海上・航空自衛隊、警察・消防、関係自治体等部内および関係機関に音声に限らず、メール、画像及び映像等を用いた情報の共有と迅速が必要不可欠となっています。このため、装備品を最大限に活用しつつ基地・野外、衛星も含んだシームレスなネットワーク等を構成して、データが主体となる通信を提供することが求められています。将来は更に情報通信分野の役割は増大するものと考えています。この様な中、通信に携わる隊員には運用から民間技術も含んだ情報通信技術に通じる幅広い能力と高度な技術・知識が必要とされており、現在ますます「情報通信時代の変革に対応する時代」との時代認識のもと、「不易流行」の視点で時代の進展を見極めつつ慎重にかつ迅速に教育等の態勢を整える必要があると考えています。

また昨年の十月に通信学校としては五年振りとなる陸上幕僚監部の総合視察を受察し好評を得ました。先輩の皆様が、その時代時代の「不易流行」を見極めつつ各種の検討・研究により進化・改善をされて来たことを陸上幕僚監部に確認して頂き理解を得たものと思います。言葉を変えまず先輩の皆様が苦勞して育ててきた花を一つ一つの蕾に納め綺麗に摘み取ることが出来たものと認識しています。紙面を借りまして感謝申し上げます。そして、時代の変化に対応していく通信学校の地位・役割及び教育の方向性等についての指標と今後の課題について認識できました。今後の課題につきましては逐次に検討を進め、新たに情報提供・情報発信をしていきたいと考えています。まさに「ICT時代にふさわしい人材の育成と部隊運用(組織)の創造」について「不易流行」を見極めつつ「創成」していくことが責務と考え更に職務に邁進する所存です。

信友会の皆様は平成二十一年のご多幸とご健勝を心からお祈り申し上げますとともに、今後とも変わらぬ温かいご指導とご協力・ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

45周年総会・懇親会

信友会四十五周年記念の総会及び懇親会を左記のとおり実施します。奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。

懇親会は恒例により現役と共催で行います。統合幕僚監部、陸上幕僚監部、通信学校、通信団、補給統制本部、研究本部、CGS・F O C学生等多数の現役が参加の予定です。(例年五百五十名以上)

一年に一度の懇親会です。是非ともお声がけいただき、同期・先輩等とももちろん、若々しい現役とも懇親の実をあげて頂きます様お願い致します。

日時 平成二十一年二月二十一日(土) 十一時三十分より

(一) 総会 十一時三十分～十一時五十分

(二) 懇親会 十一時五十分～十四時

二場所 第一ホテル東京(前年に同じ) 新橋駅から徒歩二分

(JR・銀座線・浅草線)

電話 〇三・三五〇一・四四一

住所 東京都港区新橋一丁目一六

三 会費 九,〇〇〇円(当日受付にて頂きます)

【お願い】 出欠については同封のはがきで御返信下さい。

曲がり角の中の通信団

通信団長 時 津 憲 彦



二十一年八月一日付で自衛隊福岡地方協力本部長を離任し、通信団長を拝命いたしました。思えば、平成五年に第一通信大隊第二・三係主任を最後に師団通信を卒業し、実に六ポスト九年八月月間の通信科職種の

シフトを経て平成十五年に西部方面通信群長に着任、幸せにも二年三月間の方面通信の経験を得させていたいただき、再び二ポスト三年間のシフトを経て通信団長に就かせて頂きました。プロバイダー経験よりもユーザー経験の長い通信科職種となっていました。考えてみれば団長就任と共に通信科職種徽章も剥奪されてしまいましたので、そんな仕組みのかなと思っています。

通信団長に就いて、早速任務分析すると些か困惑致しました。何故か。それは、師団通信大隊においては「師団の指揮運用に必要な通信」を考えればよく、方面通信群においては「方面総監部に必要な通信」を考えれば良かったのですが、当通信団は「陸幕及び陸上自衛隊のための通信」との任務は変わらないものの、実質は随分と違うと感じています。

自衛隊は平成十八年三月から統合運用に移行し、防衛大臣の陸上自衛隊に対する運用上の指揮は統合幕僚長を通じて行うようになりました。では、統幕のための通信をとればよいのかといえば、陸上幕僚長も人事、兵站、教育訓練等については引き続き責任を有しており、そう言った意味では統幕のための通信は引き続き必要とあります。くどくど言いましたが、冒頭の「曲がり角」の語を使用したのは、そのように陸上自衛隊通信団は新しい態勢に合致するように曲がり角を曲がり始めたものと認識しているからです。しかし、既に曲がり始めているのですが、果たしてこの曲がり角は何度曲がっているのでしょうか。

ここで、曲がり始めた通信団の現在の体制をご存じない方がいらっしゃるかもしれませんので、紹介させていただきます。

- ・通信団本部・団本部付隊
- ・中央野外通信群
- ・中央基地システム通信隊
- ・通信保全監査隊
- ・システム防護隊
- ・映像写真中隊

若干の説明を加えますと、中央野外通信群は、中央指揮所の地下化により運用大隊が運用中隊となり、搬送通信大隊もIDDNのバックアップと災害派遣時のシステムの延伸が主たる任務になりつつあります。基地通信の中核である中央基地通信隊は、中央システム管理隊が解体され、システム運用部門が編入されたため、各方面隊の基地通信大隊と同じく、任務と共に「システム」の文字が付加されました。ちなみに、中央システム管理隊の開発部門はシステム開発隊として独立し、研究本部に編入されました。通信保全監査隊は、暗号作成の主体が手作業暗号から電子式暗号にシフトすると共に監査もシステム監査任務が付加されました。システム防護隊は平成十七年三月に誕生したばかりの部隊ですが、名前の通りシステム防護のため二十四時間体制で監視・対処等の任務に就いています。映像写真中隊は、相変わらず動画、写真共に引っぱりどころです。

この現体制から今後の統合通信を考えると、従来から通信団は陸幕及び陸上自衛隊の通信に加え、檜町あるいは市ヶ谷に所在する機関及び陸海空部隊の通信も担当してきました。その延長線上で海空通信部隊が各自衛隊毎に実施しているシステム・通信以外のシステム・通信に陸上自衛隊が担当するとなれば、若干の編制替えを実施して、その任に当たるでしょう。一方、平成二十年三月に誕生した初の統合部隊である自衛隊指揮通信システム隊が拡張され、統合及び共通部分はその部隊が担当するとなれば、通信団は任務が若干減りますので一部縮小されるでしょう。それら統合通信に関わる変化で通信団の中で主として対応を迫られるのは、中央基地システム通信隊になると思います。中央基地通信所長として、運用統制から市ヶ谷内及び市ヶ谷からの出入りの通信の運営を実施してきたのは中央基地システム通信隊長です。この機能が引き続き陸上自衛隊内に維持されるのか統合部隊に吸収されるのかにより、その編制は変わるのが当然です。

更に、今、陸上自衛隊で統合幕僚長の命令を受領するのは、メジャーコマンドといわれている各方面隊の長たる総監です。真偽のほどはわかりませんが、一部の報道に陸上総隊の構想が載りました。もしそれが本当ならば、問題は通信団の一部改編のみならず陸上通信全体の持ち方の再検討が必要となってくると思います。

以上、統合運用への移行、陸上総隊構想のみならず、指揮連絡の世界も技術の進歩から、電話・電報及びFAXから、メール・データ及び映像へとユーザーのニーズは変化しています。それを既存の編成に無理矢理当てはめて業務を実施すれば、そこには無理・無駄が生じてくるでしょう。

この例として繰り返しますが、中央野外通信群

は、本来は陸上最高司令部が野外に展開するときに、指揮所合同通信所の開設及びそれへの骨幹回線を構成することが任務であったと思いますが、防衛マイクログリッドの登場で、任務にその回線の補充が加わり、更にIDDNの登場で装備を刷新して、回線補充の任務を継続しています。そして、今や陸自指揮システムが業務の中に浸透し、災害派遣時を含め各種状況報告においては、パワポイントで作成したスライドが不可欠なものとなり、電話のみでは第一線からの報告は不十分な時代を迎えました。ユーザーは、初動からメール、データを送るなどの出来る通信の提供を求めています。最近の大規模地震災害派遣においても、陸上自衛隊で大容量データ伝送が出来る数少ない通信科部隊である中央野外通信群は、必ずと言っていいほど派遣命令が出て、現場までデータ回線を提供しています。このようなユーザーニーズの変化に、今は部隊が装備外器材の保有及び運用編成努力で乗り切っていますが、早々に時代の変化に対応して、自らの姿を柔軟に変化させ、ユーザーのニーズを満足すべき通信科部隊にしなければならぬと思っています。現場でユーザーのニーズの変化を肌身に感じている隊員にも見えない将来に對し不安を与えているのではないかと思っております。

以上、数々の変化事項、技術の進歩等、通信団を取り巻く環境は大きく変化していることを述べました。速やかに、今の曲がり角がどの程度曲がっているのかを明らかにして、と言うよりは主體的に曲がり角の出口を明らかにしていかなくてはならないと思っております。

今後とも信友会の皆様には、宜しくご教示をお願いいたします。

叙勲 おめでとうございます

瑞宝双光章	菅野木谷	敏雄氏	(元 北部方面通信群)
瑞宝双光章	鈴木大谷	郁利氏	(元 中央野外通信群)
瑞宝単光章		徳利氏	(元 装備開発実験隊)
瑞宝小綬章	川本山中	治浩氏	(元 通信団副団長)
瑞宝小綬章	山弘中口	克也氏	(元 幹部学校主任研究開発官)
瑞宝小綬章	井上	透誠氏	(元 資材統制隊長)
瑞宝双光章			(元 中央基地通信隊長)
瑞宝双光章			(元 西部方面通信群)

【お詫び】
昨年度において、19年の秋に叙勲を受けておられる方を掲載していませんでした。
心からお詫びを申し上げ、下記のとおり追加いたします。

平成19年 秋の叙勲
瑞宝双光章 新井 理雄 氏 (元 東部方面通信群)

創立四十五周年に寄せて

前 陸幕通信電子課長 成 田 千 春



信友会創立四十五周年おめでとうございます。現役一同を代表いたしまして心よりお慶び申し上げます。さて、この五十年間の防衛省・自衛隊の変化を見てみますと、平成十六年に現在の防衛大綱である「二六六綱」が作成され、これに基づき十八年三月には統合幕僚監部が新設され、自衛隊の運用は統合運用が基本となりました。また、平成十九年一月には防衛省に移行し、これにあわせて国際平和協力活動が自衛隊の本来的任務として位置づけられました。

陸上自衛隊においては、平成十六年三月に第五師団、平成十八年三月に第二混成団、平成二十年三月には第十一師団が旅団化されるとともに、平成十九年三月には「二六六綱」に基づき中央即応集団が新編されました。また、平成二十年の新潟県中越地震、平成十九年の新潟県中越地震、平成二十年の岩手・宮城内陸地震等の災害派遣を実施するとともに、国際平和協力活動として、平成十五年十二月から約二年半イラク人道復興支援活動を、平成十七年にはインドネシア・スマトラ島沖大規模地震、パキスタン等大地震被害に對して国際緊急援助活動を実施しました。

さて、通信電子の分野に目を向けますと、自衛隊の統一ネットワークである防衛情報通信基盤(DI-I)オープン系が平成十五年三月、クローズ系が平成十七年三月に運用開始され、陸自指揮システム、補給管理システム、指揮管理通信システムを始めとする陸上自衛隊の各種システムが逐次DI-Iに加入するとともに、平成十八年の統合幕僚監部の設置と併せて指揮通信システム部(J6)が、平成二十年三月には自衛隊指揮通信システム隊が新編され、統合運用の指揮通信基盤が整備されました。

陸上自衛隊においても、平成十五年以降、通信団、各方面通信群を改編し、システム運用体制を整備するとともに、平成十七年三月にシステム防護隊を新編し、サイバー攻撃対処体制を整備しました。装備面においては、平成十六年度に師団等指揮システム、平成十七年度に師団通信システム(改)(iDICS)、基幹連隊指揮統制システム(ReCS)が整備されました。

また、平成十九年度からC4I2部隊実験が本格的に開始されました。この部隊実験はC4I2装備をフルに

焼け火箸とイビツな男

前 補給統制本部通信電子部長 田原 計



信友会会員の皆様には常日頃から温かいご指導とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。また、この度四十五周年の節目を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。

活用した第一線部隊の新たな戦い方の創造を目指すものであり、また陸上自衛隊における将来のC4I2装備の効率の整備を図ることを目的としており、将来的にも厳しいと予想される予算環境の中において、第一線に装備すべき真に必要なC4I2装備を明らかにするとともに、各種戦闘指揮統制システムの標準化、共通化や、これらシステムと通信ネットワークの効果的・効率的な整備の方向を明らかにすることが求められています。

現在、「新大綱・中期防に係る検討」が行われています。

昨年、金融危機を伝える報道が続く中、四人の学者がノーベル賞に輝いたニュースは久々に明るい話題を提供しましたが、受賞者の言葉の中で、クラゲから蛍光タンパク質を発見して受賞された下村脩氏の「当時の指導教官から『やれ』と言われたから始めた」という言葉に強い印象を受けました。それは、これまで上司、先輩をはじめ多くの方々から「使命を果たすこと」「生きるということ」について、厳しくかつ温かく指導いただいた教える中で、常に心に留めおくべきと信ずる訓(おしえ)に通じるところがあつたからであります。

その訓とは、群長時につかえた方面総監からいただいた言葉であります。総監は、師団長時代に同じく師団長を務めておられた同期生が大病を患い、「すぐに手術を受けさせろ」と当時の総監から電話を受けて、慌てて当人に電話をすると、その同期生は「命よりも大事なものがあつても良いよな、二ヶ月待て」と言っていて、師団長の指揮官としての重さを伝えてこられたこと、それは師団がUNDOF派遣部隊の出発準備のさなかの出来事であつたことを引用され、「指揮官・幹部として生きることとは、焼け火箸を離さない覚悟がいる。与えられたことはどんなに苦しい、意に添えないことでもめづるはいいけないことである。指揮官は任を終えるまで困難な道なのだが、困難な道は、頑張ればいつかは開けるものだ。私も

すが、進歩する情報通信技術の環境の下、陸上自衛隊における通信・システムへの期待と重要性は益々高まっています。通信電子課においても、将来ニーズに対応する通信情報インフラ、指揮統制システム等の整備に微力ながら全力を尽くす所存であります。

信友会の皆様には今度も御指導御鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、本会の益々の御発展と会員皆様の末永い御健康をお祈り申し上げます。

『失敗だ、しょうがない』と思わないで、『困難なだけだ、焼け火箸を握る覚悟でやろう』と、今は亡き同期生に話しかけている。」と教えられました。

国際貢献活動が本来任務化され、統合運用が始まって二年が過ぎ、「行動して結果を出す時代」という言葉もすっかり定着した陸上自衛隊にあって、通信科職種は今まさに「時代の転換期」の真っ直中にあると言えます。歴代首長の所信表明演説には必ずと言ってよいほど「時代の転換期」という言葉が使われているようですが、この通信科職種の転換期は、四半世紀に一度有るか無いかの転換期であります。デジタル通信装備第三世代としてNCW(ネットワークを中心とする作戦)の基盤となる新野外交信システムや、師団等指揮統制システムと一体として運用される全ての機能別指揮統制システムが整備され、また、それに伴って通信科職種に期待される役割は更に拡大し、伝統的な特技体系や通信部隊の編成は発展的に大幅な見直しが必要となることとなります。予算等の環境は引き続き厳しい状況が続くと思われませんが、まさに「焼け火箸を握る覚悟」を持ち、必ず道は開けると信じて困難を乗り越え、通信科職種にとつての「新世紀」を迎えることに貢献したいものであります。

また、困難を前にして、如何にその使命を果たすべきかを迷い、逡巡したときに思う訓があります。学校記事二〇〇一年一月号巻頭言に当時の学校長が述べられた言葉「イビツな男でも夢のある男がいい、シャイな女でも夢を見させる女がいい、何処に行つたオノコ達よ、何処に行つた乙女達よ、出て来い、『新世紀』が始まるぞお」であります。焼け火箸を握りしめて離さない覚悟を腹に決めて、尚も苦しい時にはこの言葉を胸に自らを今一度奮い立たせ、ひたすら一生懸命であれば必ず使命を果たすことができると信じて、前に進んで参りたいと思ひます。

偉大な研究者の「やれ」と言われたから始めた」との言葉に触れ、あらためて諸先輩が残された訓の真実と重みを知ることができたような気がしております。いず

信友会新入会員名簿

(H19.11.02~H20.12.01の加入者)

氏名	現住所	最終所属	退職年月日
長谷川 勝	北海道札幌市	北方通群	H19.08.19
森田 洋史	富山県小矢部市	装備施設本部	H19.10.28
林 秀樹	神奈川県鎌倉市	通信団本	H19.11.01
林 憲隆	福井県福井市	中方通群	H19.11.22
草木 迫彰	埼玉県入間郡	通信団本	H19.11.23
黒木 義憲	熊本県玉名郡	8通大	H19.12.20
横路 和晴	島根県仁多郡	中方通群	H20.01.03
金 森春夫	東京都大田区	通信団本	H20.01.10
山 並和治	神奈川県横浜市	中業支	H20.01.17
門野 陸廣	東京都東村山市	通信団本	H20.01.18
内山 芳樹	埼玉県朝霞市	通信団本	H20.02.20
横山 政志	宮城県多賀城市	東北通群	H20.03.25
菊池 伯	神奈川県川崎市	東北補給処	H20.03.26
小谷 智志	兵庫県伊丹市	中方通群	H20.04.20
中本 耕治	埼玉県ふじみ野市	補統本部	H20.05.02
三浦 義章	埼玉県志木市	通信団本	H20.05.09
川城 芳雄	神奈川県横須賀市	中基シ通隊	H20.05.27
松野 勉久	福岡県北九州市	福岡地本	H20.05.27
大瀬 英治	埼玉県さいたま市	東通群運大	H20.06.17
岩切 厚	埼玉県富士見市	通信団本	H20.08.01
川合 正俊	茨城県土浦市	技本	H20.08.01
山根 洋	神奈川県横浜市	システム開発隊	H20.08.01
郡山 茂樹	秋田県大仙市	21普通科連隊	H20.09.10
本田 徹	埼玉県鶴ヶ島市	通信団本	H20.10.30
渡邊 隆一郎	福岡県大野城市	九州補給処	H20.11.04



新入会員



第44周年懇親会

れが精進を重ねた先には、これまで皆様からいただいた数々の訓を、一つでも自分の言葉にしたいものであります。

す。信友会会員の皆様には、引き続き尚一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

システム開発隊紹介

システム開発隊副隊長 加地 信夫



信友会創設四十五周年おめでとうございます。四十五年という永きにわたり信友会の充実・発展に尽力された歴代会長を始め、会員皆様方のご努力に敬服いたします。システム開発隊は、平成二十年三月二十六日に誕生し、ようやく一年が過ぎようとしているところであり、信友会を見習って今後永く、陸上自衛隊のシステム開発分野で貢献できるよう努めてまいりたいと思います。

さて、システム開発隊は、各システムのソフトウェアの開発・改善機能をシステムの標準化に合わせて集約・統合し、一元的開発体制、情報共有の容易性及び隊力運用の融通性をねらいとして構想段階から一貫したシステム整備の開発を実施するために編成された研究本部隷属の部隊です。

組織は、陸上自衛隊指揮システム等の開発・改善及び評価を実施していた中央システム管理隊、補給管理システムの開発を行っていた補給統制本部情報処理隊の一部及び指揮所訓練統制支援システムの開発を行っていた北部方面指揮所訓練支援隊のシステム開発班を統合して編成されており、標準化システム等の開発・改善を担っています。

編成準備段階においては、陸幕、研究本部及び通信団指導のもと、北部方面総監部、補給統制本部及び開発実験団等の協力を得て、研究開発の各段階における技術研

究本部、陸幕、研究本部及び補給統制本部等との間での業務処理手順を検討するとともに、維持管理における通信団及び補給統制本部等との間での業務区分を調整し、更にシステム開発隊新編準備プロジェクト検討会において、各システムごとのシステム開発隊内での役割分担を検討して新編以降、円滑に業務が実施できるように努めて来ました。

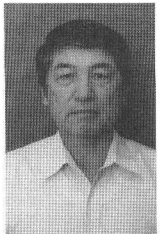
システム開発隊は、「二つ、上下一致、至誠業務に徹し、技術報国の実を挙げよう、一つ、研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし、一つ、常に心は第一線に置き、部隊感覚を忘るべからず、もって陸上自衛隊のシステム開発の中核的研究実施機関たるべし」を創隊の精神として掲げ、速水隊長統率のもと、要望事項「明るく、抜かりなく」を体して、C4I2部隊実験への協力、火力戦闘指揮統制システム、対空戦闘指揮統制システム及び新野外通信システム等の研究開発への協力、新指揮所訓練統制支援システムの開発及び陸自指揮システム・補給管理システムの改善等を実施するとともに、陸上自衛隊における情報システム開発に資する情報発信、情報共有及び意見交換の場としての「システム実務者研究会」の運営を担当しています。

システム・オブ・システムズに見られるように、システムの拡大化、複雑化に伴いシステム開発隊の取り扱うシステムの範囲は今後拡大し、実施すべき業務も更に拡充することになると思われ、責任も重くなるものと認識しています。

今後、将来動向を見据えて運用者に喜んで使ってもらえるシステムを開発することをモットーとし、部隊の戦力化及び業務の効率化に貢献することを目標に、陸上自衛隊におけるシステム開発の中核と成るべく努力してまいりたいと思っておりますので、信友会の皆様には今後ともご指導・ご支援を賜りますようお願いいたします。

「武蔵野たより」

東部方面通信群OB会長 惣 坊 勉



信友会会員の皆様及び機関紙「信友」ご愛読の皆様、今年は信友会創設四十五周年記念の節目と言う事で、誠におめでたうございます。

陸上自衛隊の創隊に約二十年隔てた、古く・伝統のある通信外部組織「信友会」の益々の進展を祈念致します。

さて、今回はこれらに比し最も歴史の浅い東部方面通信群(創立二十六周年)の変遷とOB会等の活動等について筆を執らせて頂きます。

東部方面通信群は、昭和五十八年三月(大韓航空機撃墜事件、流行歌「矢切の渡し」首都圏(一都十県)の防衛を担任する東部方面隊の骨幹通信を担う部隊(方面通信群としては最終部隊)として市ヶ谷台において産声を上げました。元々歴史のある「一〇一基地通信大隊」(現在も群勢力の2/3)に間借をするように群本が、野外部隊の「運用大隊」と「搬送中隊」は久里浜に編成されましたが、これらが群のOB会及び協力会の成立と活動に少なからずの影響・特性となって現れております。

OB会会則では昭和五十八年三月二十四日施行となっていますので、実体はその頃に出来たと思われすが、本格的活動は、施設再配置により朝霞駐屯地に移転(群本と基地が朝霞に)した平成六年以降と諸先輩は言っております。従いまして基大OB会の方が勢力も活動も活発であり、現在もその傾向が続いております。

当初の役員配分は朝霞と久里浜に区分、基地会員が一部の二桁会員からという苦勞がありました。平成二十一年の現在では、会員数約二百四十名、特に念願であった野外部隊の朝霞移駐の平成十三年以降は活動も活発化しており、また、会員のにも平成八年に出来たシステム管理隊の要員を含めた基地要員も逐次増加しております。OB会は、その目的を「会員相互の親睦と部隊活動の協力」として、特に通信群の諸行事に密接に参加しております。最近の例ですが、春の「創立記念行事(総会、



群創立25周年記念植樹

植樹、懇親会」、「花見、夏の「盆踊り」、冬の「餅つき」を定例として「群検閲」や「PKO」の激励「YS」支援等主に心の方を重視して協力しております。会員の多くは創立記念行事の懇親会(1/3はOB)を楽しみにしており、出身母体毎のテーブルにて昔話に耽っております。

協力会につきましては、平成七年三月、七代群長(澤頭一佐)の尽力により「通信群友の会」として約二十名で発足、現在は五代目の会長の下、先に述べた行事等に物心両面の協力をしております。昨年は新たに、春に「富士学校研修」、夏には「市谷研修」を行いました。最後にOB会としては、今年「方面総監検閲の受閲」を控えた東部方面通信群の益々の発展、特に、十四代群長を核とした「着実な精強部隊の育成」に、微力ながら協力していきたいと思っております。

陸上自衛隊通信電子の現況

一 はじめに

防衛省への移行から約一年が経過しますが、この間、護衛艦「あたご」と漁船「清徳丸」との衝突事故、インターネットを通じた情報流出問題、過大請求など防衛調達に透明性に係る問題及び前事務次官が収賄容疑で逮捕されるといった様々な事案を踏まえ、「防衛省改革会議」が行われ、その報告書が提出されるとともに、防衛省内でも更なる検討が進められているところであります。

一方、通信関係では、六月に実施された洞爺湖サミットにおいて、民生通信器材等を含むシステム・通信組織を構成し、見事に通信支援任務を完遂しました。その状況を成田課長以下で視察し、じ後の陸幕施策の資を得ることができました。また、六月及び七月に岩手・宮城県で発生した岩手・宮城内陸地震等に際し、災害派遣活動の基盤として欠くことのできないヘリ映伝、システム・通信等の構成・維持等に実力を遺憾なく発揮しました。この地震に伴い東北方面隊で行われた研究会に通電課の要員を参加させ、じ後のシステム・通信電子における資を得ることができたことと認識しております。

一方、厳しい予算環境は常態化しており、防衛省としては、一般輸入調達問題への対応、装備品のライフサイクルコスト管理の強化、コスト抑制のための達成目標の設定、インセンティブ契約の拡充、民間委託の拡充、FMSの一層の改善、統合運用の視点に立った装備品取得、技術研究開発の評価の強化等の総合取得改革を推進しているところであります。

このような環境の中、将来の通信体制を見据えつつ、陸上自衛隊通信電子・システム分野の発展・充実のため、通信電子課一同、日々の業務に取り組んでおります。

二 主要通信電子器材等の整備

本年度は、方面隊電子交換システム(西部方面隊)、師団通信システム(改)(第四師団、第八師団)、師団等指揮システム(第六師団、衛星単一通信システム(第十一旅団、中央即応集団)、遠隔操縦観測システム(富士教導団、近距離監視システム(中央即応集団)、基幹連隊指揮統制システム(TK用)(第二師団)、電子戦システム(TSEJ)(第十一旅団)等が逐次部隊に納入されます。その他新規装備品としては、新無人偵察機、対空戦闘指揮統制システム及びUAV(近距離用)を取得する予定です。

平成二十年のシステム関連事業は、東北方面隊の方面隊指揮システムの換装及び北部・中部方面隊の補給管

理システムを構築する予定です。
また、「移動型情報通信基盤」、「高速・大容量のデータ通信」、「ソフトウェア無線機技術による無線機の統合」を特徴とした「新野外通信システム」の開発が行われています。

三 体制変換

(一) 内局等の改編
防衛省改革においては、平成二十年五月に石破防衛大臣より防衛省改革のキーワードとして「自衛隊(軍隊)からの安全」とともに「自衛隊(軍隊)による安全」を、「部分最適化から全体最適化へ」、「現場部隊と中央組織との距離と時間の極限」、「人的資源配分の最適化とこれによる現場部隊や教育現場の人的充実」、「文官と制服自衛官との間における責任転嫁の排除と人材の育成」の五つを示され、省内において現在、検討されているところです。

統合関連では、平成二十年三月、省全体の通信システムの管理運営、監査業務、防護・維持業務等を一体的に行うため、統幕(J6)の現業部門を母体とした「自衛隊指揮通信システム隊」が統合部隊として初めて新編されました。

また、一連の情報流出事案を受け、防衛省内における情報保全態勢の強化を図るため、陸・海・空目に設置されている情報保全隊を統合し、共同の部隊として「自衛隊情報保全隊(仮称)」が新編される予定です。

(二) 陸自部隊の新編

今年度末、自衛隊情報保全隊(仮称)の新編に伴い、情報保全隊及び本部隊並びに各方面情報保全隊が廃止となります。また、方面隊の情報処理体制及び沿岸監視体制の整備として、東北方面隊に関係部隊が新編されます。

(三) 陸自通信部隊の改編等

今年度末、方面隊電子交換システムの導入に伴い、西部方面通信群及び西部方面総監防衛部防衛課通信班が改編されるとともに、第四通信大隊が師団通信システム(改)(iDICS)の導入に伴い改編されます。

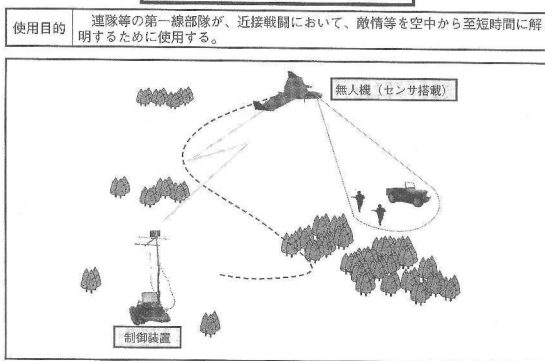
また、基幹連隊指揮統制システム(ReCS)の導入に伴い第三・第二普通科連隊を改編し、基幹連隊指揮統制システムの構成・維持・運営及び保守・管理体制が整備されます。

四 おわりに

現在、「新大綱・中期防に係る検討」が実施されていますが、限られた予算の中、将来のシステム通信に大きく関わる「新野外通信システム」、「衛星幹線通信システム」等の事業を推進するとともに、逐次に整備される

「野外指揮統制システム」等を活用した「C4I2部隊実験」の成果を「統合運用」の観点からも分析し、あらゆる任務に対応するため通信電子・システム分野の充実発展に日々努力して参る所存ですので、信友会の皆様はなご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

UAV(近距離用)の概要



事務局だより

一 会員名簿補遺版の発行

今年度は、「補遺版」(変更・修正、新入会員分等)を作成・配布致しました。
会員名簿は都道府県別の区分で整理しておりますが、形式、内容等に関してご意見がありましたら事務局までお寄せ下さい。

二 信友会総会・合同歓送迎会の開催

昨年度の第四十四回信友会総会及び通信科・信友会合同歓送迎会は、平成二十年二月十六日(土)に会員・現役合わせて約三百名の参加を得て盛会裡に終了しました。
本年度は、第四十五回総会・合同歓送迎会を、平成二十一年二月二十一日(土)に、昨年と同じく「第一ホテル東京(新橋)」において開催する運びとなりました。
会員皆様多数のご参加をお待ち申し上げます。

三 東北方地区懇親会の開催

会員相互の親睦を目的とした地区懇親会を、各方面通信群等のご支援を戴きながら行っています。昨年度は、平成二十年五月に北方方面通信群創立記念行事に合わせ実施致しました。本年度は、東北方方面通信群のご協力を戴き、四月上旬頃に予定されている同通信群創立記念行事に合わせて実施するよう計画しております。東北方会員の皆様には別途ご案内を送付致します。万障繰り合せてのご参加をお待ち致しております。

四 信友会ホームページ等

信友会のホームページを開設して約三年が経過いたしました。なかなかタイムリーなアップデートが出来ておりませんが、ご叱責頂きながら少しでも会員各位のお役に立ちたいと思います。またメールアドレスをご通知頂いてると各種ご案内等をタイムリーに送付できると思っています。

信友会ホームページ各ページ上部に記載のとおり
信友会メールアドレス shinyukai@livedoor.com

五 信友会役員の紹介

長い間ご尽力頂きました総務幹事 石川澄男氏、機関紙幹事 緒方信之氏、名簿幹事 米塚正氏・岡田長一氏・濱田次朗氏、総務幹事から監事の 丹生明正氏が退任されました。
現在の役員は、次のとおりです。

(※ 新任役員)

- 会長 福井孝三
- 副会長 行徳浩志
- 事務局長 水口二平
- 総務 長 佐藤誠喜
- 松浦学・小島保仁・角和二郎・門野睦廣*
- 機関紙 長 森康雄
- 上田萬満
- 中村好男
- 三浦慎平
- 今村行雄*
- 佐藤正之*
- 木下典夫
- 渡邊顕徳
- 草木迫彰*
- 三浦義章*
- 三浦義章*
- 野崎正光
- 吉田義輝

計報 謹んでご冥福をお祈り申し上げます

(H19.11.02~H20.12.01の承知分)

氏名	逝去年月日	住所	名簿頁
菅部 敬昭	H19.12.03	宮城県仙台市	21
安藤 昭六	H19.01.01	東京都練馬区	45
安藤 邦利	H19.11.11	東京都新宿区	45
大日向 邦利	H13.01.29	東京都八王子市	
大河原 邦四郎	H20.11.23	北海道札幌市	16
大島 英男	H19.11.10	山形県東置賜郡	24
大乙 英男	H19.10.25	兵庫県宝塚市	
金子 政史	H16.01.21	東京都世田谷区	
工藤 史郎	H17.09.13	東京都江東区	
小西 創一		宮城県仙台市	22
小林 英平	H19.12.15	東京都練馬区	49
菅原 忠夫	H19.04.24	群馬県高崎市	27
高草 未代	H19.06.10	宮城県多賀城市	23
高木 義隆	H20.03.12	埼玉県葛飾郡	34
高竹 義光	H06.01.27	神奈川県横浜	
武井 琢二	H17.06.1	神奈川県横浜市	
武田 琢二		兵庫県神戸市	75
立花 安一		埼玉県所沢市	34
三宅 忠志	H11.12.01	三重県松阪市	
戸久世 清	H19.09.25	熊本県熊本市	
中武 秀樹	H12.1	青森県八戸市	21
中山 尚樹	H19.04.28	北海道札幌市	
西本 三蔵	H18.10.14	埼玉県広島市	35
尾崎 治	H20.02.1	東京都清瀬市	53
平岡 安記	H19.05.06	兵庫県神戸市	76
三好 安記		兵庫県伊丹市	
三好 安記		神奈川県海老名市	67
三好 安記		島根県益田市	77
三好 安記		宮城県仙台市	24

備考:名簿項のない方は、名簿に記載なし

平成20年度信友会会計報告

(H20. 1. 1~H20. 12. 31)

収 入		支 出	
前 年 繰 越	5,437,957	慶 弔 費	60,500
終 身 会 費	260,000	郵 送 等 事 務 費	347,946
通 信 等 事 務 費	1,478,000	印 刷 費	376,007
利 子	637	原 稿 料	22,392
第44回総会残金繰入等	11,510	地 方 交 付	100,000
		総 会 会 場 代	100,000
		振 込 等 手 数 料	88,460
		次 年 度 繰 越	6,092,799
計	7,188,104	計	7,188,104

以上のとおり報告します。

信友会会計幹事

監査の結果、異常ありません。

信友会 監事

平成20年12月31日
村田 和美
野崎 正光

平成20年12月31日
吉田 義輝



北方地区懇親会 (20年5月)

十代の仲間の入りのまゝ後期高齢
 者の多くを占めるのは、
 縁でなく、科通のメタボに
 菓でなく、とを済む程、
 庶民のたのしみ、
 日課にしたい、
 新に変わらな
 改め、感謝の意を
 述べ、
 北海道
 小間孝元

一 一九五一年二月（四月）
 第一 第三次世界大戦を回避
 したが、世界を統合する方策
 についで、吉田首相と芦
 田前首相に榮簡。マ元帥は
 田官・朝鮮勤乱は終戦。
 絶界の地球統合は、絶海
 の日本統合史に師事可能。
 の神は示す。申は電と同
 言語。信友会は申を担当。

信友会発足の年に、幹候
校に入校・通信科に。後
の組織の検討がなされ、
は活動の基盤が充実した
をさせ、通電課で当分の
六年、原簿の空挺通信小
が中隊に。信友会の発展
とも、入感に。信友会の
を、一入感に。信友会の

栃木県
猪瀬 優

昨斗「アドバンステス」から外
資系の「ロンドン」で勤務中
就職した。新商に勤務中
外資系の「ロンドン」で勤務中
者の「ロンドン」で勤務中
会社の「ロンドン」で勤務中
ト受検「ロンドン」で勤務中
います。外資企業は「ロンドン」
の向上が、外資企業は「ロンドン」
ドライブな面もありです。

吉田 史郎

二、就職を希望。加齢により、健康
を、一入感に。信友会の
を、一入感に。信友会の
を、一入感に。信友会の
を、一入感に。信友会の
を、一入感に。信友会の

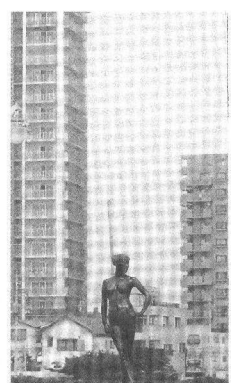
新井 俊彦

何時の間にか、未老を
身に、一入感に。信友会の
を、一入感に。信友会の
を、一入感に。信友会の
を、一入感に。信友会の
を、一入感に。信友会の

志 政 博



武蔵国埼玉県
磯部 孝 (其法山三吉)



埼玉
今村 行雄

芸術、高層マンション、そして地球
防衛隊(いんちん)の町で生活します。

祝創立45周年 今年10月か
サンデー毎月の身となり
した。生を、一入感に。信友会の
を、一入感に。信友会の
を、一入感に。信友会の
を、一入感に。信友会の

埼玉
植 明 矩

第4部、通信課を研究
を、一入感に。信友会の
を、一入感に。信友会の
を、一入感に。信友会の
を、一入感に。信友会の
を、一入感に。信友会の

埼玉
浦 江 幸 彦

さ、久里、通信、学校、配
の、月、か、遠、れ、ま、し、た、有、余、年、配、の、履
が、し、の、久、里、を、訪、れ、ま、し、た、有、余、年、配、の、履
下、宿、に、近、く、大、変、な、時、を、過、す、た、有、余、年、配、の、履
リ、ニ、ン、グ、店、は、跡、形、も、無、く、ま、く、ク、有、余、年、配、の、履
ま、で、し、た、記、念、碑、は、跡、形、も、無、く、ま、く、ク、有、余、年、配、の、履

埼玉
小 川 彬 夫

退官後、早や二十七年過
した、が、在、任、中、御、指、導、賜、ま
り、ま、し、た、の、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び
に、隊、友、の、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び
で、す、ね、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び
元、氣、な、毎、日、の、御、報、が、一、番、つ、ら、い、び
く、十、五、分、の、御、報、が、一、番、つ、ら、い、び
管、理、の、主、眼、を、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び
を、楽、し、く、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び

小 澤 昭 五

創立45周年 小田啓一
う、ご、い、ま、す、の、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び
め、て、い、ら、い、ま、す、の、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び
が、現、在、の、御、報、が、一、番、つ、ら、い、び
グ、や、現、在、の、御、報、が、一、番、つ、ら、い、び
す、組、合、理、事、に、つ、き、合、い、ま、す、の、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び
動、に、参、画、し、て、い、ま、す、の、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び

小 田 啓 一

五十一、三十三、二、年、通、信、課、を、定
年、退、官、後、早、や、二十、七、年、過、ぎ、ま
の、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び
元、氣、な、毎、日、の、御、報、が、一、番、つ、ら、い、び
退、官、後、早、や、二十、七、年、過、ぎ、ま
の、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び
の、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び
の、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び

大 草 清 美

歴、自、の、通、信、情、報、の、融、合、の、要
セ、代、の、役、を、占、め、る、よ、う、に、重、要
な、代、の、役、を、占、め、る、よ、う、に、重、要
の、代、の、役、を、占、め、る、よ、う、に、重、要
の、代、の、役、を、占、め、る、よ、う、に、重、要
の、代、の、役、を、占、め、る、よ、う、に、重、要
の、代、の、役、を、占、め、る、よ、う、に、重、要

大 久 保 利 通

川 柳 (しんやう) 三 題
一、予、備、隊、の、二、段、ベ、ッ、ト、で
一、教、育、の、二、段、ベ、ッ、ト、で
一、通、信、の、二、段、ベ、ッ、ト、で
一、通、信、の、二、段、ベ、ッ、ト、で
一、通、信、の、二、段、ベ、ッ、ト、で
一、通、信、の、二、段、ベ、ッ、ト、で

大 熊 幸 次 郎

信友会創立45周年
ま、こ、と、に、お、め、で、と、う、ご、い、ま、す、の、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び
ま、こ、と、に、お、め、で、と、う、ご、い、ま、す、の、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び
ま、こ、と、に、お、め、で、と、う、ご、い、ま、す、の、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び
ま、こ、と、に、お、め、で、と、う、ご、い、ま、す、の、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び
ま、こ、と、に、お、め、で、と、う、ご、い、ま、す、の、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び
ま、こ、と、に、お、め、で、と、う、ご、い、ま、す、の、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び

大 山 義 一

御、蔭、様、で、金、に、感、謝、感、謝、の
毎、日、で、す、の、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び
毎、日、で、す、の、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び
毎、日、で、す、の、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び
毎、日、で、す、の、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び
毎、日、で、す、の、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び
毎、日、で、す、の、お、計、報、が、一、番、つ、ら、い、び

埼玉
鎌 田 日 吉

市儀村

小柳正行

修見

丹野泰藏

琦玉果
田中常老

が、私は一人身となりまして、
 毎日元気で過ごさせて
 頂いています。家では主として
 小・中学生等を対象とし、
 習字（書道）教育を
 実施して、
 最近市、町の
 図書館、
 公民館、
 学校等に
 於て、
 書に
 関する
 興味、
 知識、
 技術を
 高め、
 文化を
 めざまし
 た。

中古嘉寧

酒類、薬物、性犯罪といふ卑劣の行状、胸病指征^{きょうびしうてい}が、視覚障害者の認定を受けながら、
 も何とかが再就職し、今を送っております。

不幸にも、医師の診断に誤りはないかというところで、このところ、知野実案^{ちののじつあん}、視力低下
 検査も完了し、会社との理解もあり、今5月8日から約半年の予定で、都内の視覚障害者
 学生生活支援センター^{がくせいせいふくしんえんたー}に入所し、生活面での訓練を講じています。行動面や生活情報の
 面で、多くを物を使いつつありますが、訓練をいかなる少くも、視覚以外の感覚
 訓練で、ほんの少しづつ出来ることを目をつけられ、取り組んでおられます。

訓練で、訓練センター行事として東京視覚障害者スポーツ大会、駒沢大学スポーツ
 大会などにも参加し、500mと2000mに出場しました。これに何と、マラソン
 団体にもぬい、国際障害者スポーツ大会の予選を兼ねたものだったので、都内2区27
 名に同名列をされた。大会団体に引き寄せられたいということで、参加してみよう
 とする。出来ないこととありますが、出来ることに向かってゆく中で、いろいろな
 ことと思ひます。折角とされた人生、残りの年代に周囲の方々の支援を受けながら

埼玉県
 長岡 保

一、是年まで、自覚に欠けて、
 いたこと、彼は恩義を愛け、
 乙、良国で治々として、
 有り、めで様に、(1) 神繩を、
 く、全国に足を踏み入れたニ
 と、全国敗れた人、
 と、一番勝つたとは、(2) ゴマ、
 リ、がゆをきかしたニ、
 乙、本公の逆言は、
 か、る協調性へ、スリム化に。

和村

電話に出ると、親父さん
を頼むと、私ですと言つ
声が若く、息子様かと思
た。声が若く元気だと言
われて悪い気はしない。老
人会の毎週のカラオケ会
で、高い調子の歌も楽に
てゐる。発声が健康維持
に役立つ。傘寿越えであ
る。

創立四十周年ご同慶に存
じます。入会させて頂き二
十七年の年輪と共に体力が
超低下し町内後期高齢者百
六十名のクラブ会長として
会員が少しづつ心癒やせる
生きがいのある場をつくり健康
長寿でピンコロを回し、
勿論私もその一人。そんな日
々を過す現況です。

八十路入りし、年相応に元
氣で、史跡研修の責任者と
して、二十数名と共に年間
六回関東を中心、春夏秋冬
多の自然に接し、歴史の口
マンを求め、楽しい時を
送っています。
残り火は、菊作り、野菜作
り等、大いに人交をエンジ
ョイしなれと思つてます。

切さを現役の時以上に感じ
 る海日です。また、毎
 日加突戦です。交通戦争に
 取り組み一日も早い平和解
 決を目標としてほしい。戦術知
 識を駆使してほしい。私利私
 任事。三井物産海上、東京操
 倉。水部、浅草第一係、磯崎
 金。お支払。セ。タ。専任職。



人生禁煙

平成20年7月1日より約40年に及ぶ喫煙生活を終了し禁煙しました！
禁煙方法を知りたい人はお電話でも！

千葉県

が、防衛省も遠くになりまし
た。配り、いままでの夢をみ
た。上から下までオカシな
で、呼吸が、余計な配りな
で、運動して、身を、配りな
かに、鏡で、水を、配りな
かに、鏡で、水を、配りな

月、現在、自衛隊の、理、わ
り、退、官、元、市、海、リ
の、方、は、常、一、年、中、リ
施、設、は、元、市、海、リ
好、ま、な、方、は、常、一、年、中、リ

健康第一に、給、描、いた、り、す
皆、毎、日、を、健、勝、を、祈、念、致、す
皆、毎、日、を、健、勝、を、祈、念、致、す



「泥ンコ遊び」

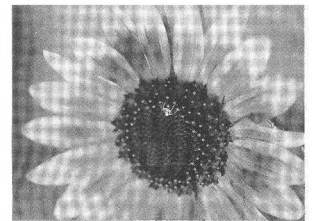
千葉県
猪狩正道

私の、健康、管理、法、は、
重、ん、ん、ん、ん、ん、ん、
る、ん、ん、ん、ん、ん、ん、
い、ん、ん、ん、ん、ん、ん、

小学生、激動の昭和から平成へ移行した年に退官して二十歳の歳月が
過ぎました。馬鹿を重く七十五歳になり、後期高齢者に指定されて
おられます。老人医療、介護などのお世話にならずに余生をエンジョイして
おられます。

毎日、今日、何、を、し、ま、す、
の、す、い、い、い、い、い、い、
を、追、い、い、い、い、い、い、
ま、す、い、い、い、い、い、い、

外、ラン、テ、ニ、
眼、デ、ジ、タ、
の、要、求、等、
元、気、で、す、



千葉県
上野昭弘

元、元、元、元、元、元、
元、元、元、元、元、元、
元、元、元、元、元、元、
元、元、元、元、元、元、

第二の人生、二十八年が過
ぎ、体の、元、元、元、元、
お、り、ま、す、目、下、一、病、と、付、合、
い、な、が、ら、若、干、の、趣、味、を、楽、ん、
で、お、り、ま、す、

退官後六年、ベンチ
ヤー企業で、センサ
ネットワークを応用し
たプロジェクトを担当
しています。必要な技
術は通信電子装置品の
研究開発で培った技術
であり、改めて久留米
で通信科を選んで良か
ったと思っています。



千葉市
志賀正吾

お陰様で元気に働いておいます。76歳。
千葉県
蘇田康雄

公・民・私ともに誇りも恥も
忘れた不祥事ばかりで新聞・
テレビを見るのが嫌になるこ
の頃です。
日常の生活スタイルを4(グ
ループ)2(夫婦)1(一人)
維持しておりますが、辛うじて
中心は2のフェイズに移行し
つつあります。

OB二年目。会社の仕事
は、ラン、テイ、ア、の、仕、事、に、汗、を、
流、し、出、し、充、実、し、た、生、活、を、送、
っ、て、い、ま、す、
健康、管理、に、気、を、つ、け、て、年、
金、も、も、ら、え、る、ま、で、頑、張、り、ま、
す。

二回、脳梗塞で
リハビリの日課
スライム
酔生夢死の心地

千葉県
杉村昭夫

お陰様で元気に働いておいます。76歳。
千葉県
蘇田康雄

千葉県
田上博

千葉県
角和三郎

旅地飛て予す、今無
 にの心の定。韓後職今
 し人込自で一國のに年
 たとみ縣、〇一人なの
 い触利車電月周生り六
 とれ用借車上旅設ま月
 思合等用・旬行計し未
 つえ、バ約ををたで
 てる努旅スニ準考。漸
 いよめ人・週備え当く
 まうて宿現間中る面完
 すな現の地ので傍、全
 千葉
 平田昭英

永らく御無沙汰致し申し説
ありません。はゞを過ぎた
頃から腰部脊骨管狭窄症の
症状が悪化の一途を辿り、
ペインクリニツク通院を始
めて三年になります。歩行
及び立位時の痛みに戦つて
います。なお昨年七月末に
終の棲家への転居を行ない
ました。

信友会創立四十五周年、心
 から慶賀申し上げます。停
 年退職後四十一年の歳月を
 経て、すつかり忘れがけで
 いた十七年間の保安隊も金
 め隆上目術隊生活、懐かし
 く思い出さる。近代化さ
 れた現実の安かた強く頼も
 しくありません。どうか堅実な
 国民の友校として発展祈る

東 京 都 正 臣
 荒 木

早のものとて退官して十五年
 となり、徒に馬齢を重ねる
 のみです。か何とかな相応
 に過しております。
 昨今の防衛関連の報道には
 誠に残念です。
 必らずや明るいの未来の訪れ
 を信じております。

六信
 石川
 京都
 東